

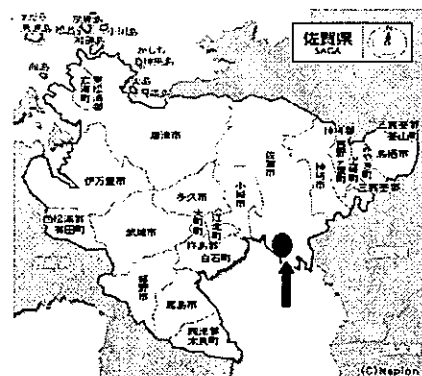
漁家に嫁いで —漁業者（はま）の嫁に来んしゃい！！—

佐賀県有明海漁業協同組合 東与賀町支所 女性部
山田良子

1. 地域の概要

私が住んでいる東与賀町は、佐賀県の南部に位置し、町の南側が有明海に面している。町域の大半が江戸時代から第二次世界大戦まで続けられた干拓によって造成された土地で、最高点でも海拔 2.8m しかない低平地であり、起伏がほとんどない地形である。

人口は、平成 22 年 11 月末時点で 8,642 人、世帯数は 2,713 世帯である。



毎年 11 月頃の東与賀海岸には鮮やかな紅紫色のアカザ科塩生植物『シチメンソウ』が群生し、県外からの観光客が多く訪れる観光スポットにもなっている。また、昭和天皇の最後の行幸地でもあり、現在の天皇陛下も来られた佐賀県としても大変自慢の場所である。

2. 漁業の概要

そんな東与賀町にある佐賀県有明海漁業協同組合東与賀町支所は、海苔養殖業を主に営む正組合員 118 名で構成されており、昨年度の海苔の水揚げは支所全体で 20 億枚であった。

JF佐賀有明 東与賀町支所	
・業種	海苔養殖業
・正組合員	118名
・水揚げ	20億枚 (平成21年度合計)

東与賀町支所 女性部

※昭和33年11月発足
※部員数91名

- ★浜清掃
- ★乾のり講習会
- ★海苔の佃煮 製造・販売
- ★商社訪問



3. 研究グループの組織と運営

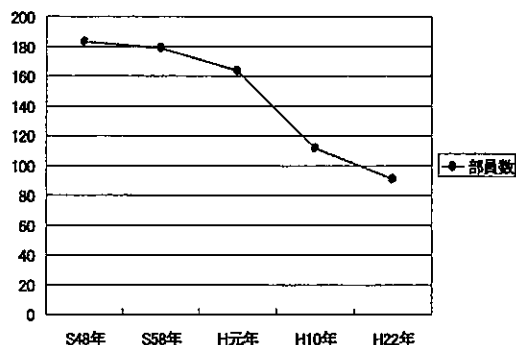
東与賀町支所女性部は、昭和 33 年 11 月に発足し、現在の部員数は 91 名である。活動内容としては、海苔繁忙期以外の 4 月末～10 月までの半年間しか出来ないが、わかしお洗剤の普及はもちろんのこと、浜清掃、乾海苔講習会、海苔の佃煮作り、そして今年度からは女性部全員参加の商社訪問を実施している。

4. 研究・実践活動の取組課題選定の動機

こうして女性部活動をしていくものの、多い時は部員が 180 名ほどだったのに対し、現在は 91 名と半分ほどに減ってしまっている。

今年度から女性部部長を任された私に何ができるか・・・と考えた時、女性部に入った当初からの出来事を思い返してみた。

JF東与賀町支所女性部員数の推移



5. 研究・実践活動の状況及び成果

私は、昭和 51 年隣町から東与賀へ嫁いで来た。

実家も同じ海苔養殖をしていたので、仕事の内容はよく理解していたが、長い年月の間にずいぶん変化してきた。

嫁いだ頃は一つ一つ手仕事で、住み込みの人を雇い、近所の奥さんたちに手伝ってもらうほどの人手が必要だった。

昭和 55 年当時は海苔の単価も高く、ついに我が家も全自動乾燥機を購入した。

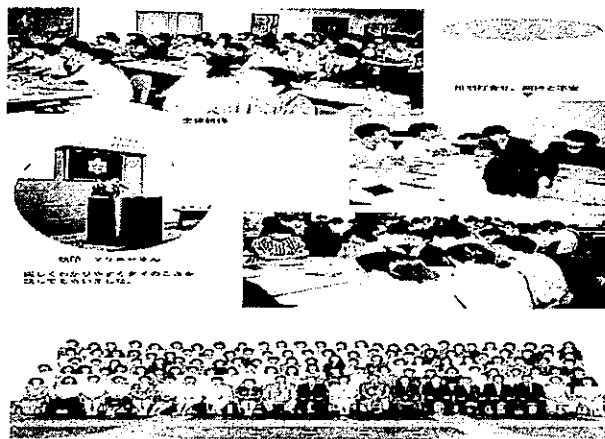
海苔の原藻を機械に入れると、二時間後には製品になって出てくる夢のような機械だった。その分人手が要らなくなり、夫婦で沖に出て働くようになった。

しかし、乾燥機を購入したとはいえ睡眠不足が重なる労働に加え、家事や育児にも追われて仕事をするのが辛くなり、不謹慎ながらも「早く海苔が腐ればいいのに・・・。」と思った事も度々あった。

ちょうどその頃から、姑に代わって女性部の活動に参加するようになり、みんなの生き生きとした笑顔や言葉に励まされて、自分の考えの未熟さが恥ずかしくなった事を覚えている。

海の仕事にも慣れた平成 7 年、女性海外派遣団「ふれ愛の翼 '95」に参加する機会を頂く。(写真 1. 2. 3)

県内の農林業、水産業、商工業に従事している女性 100 名が集い、事前研修が行われたが、面識のない人達たちの班で構成されていて、菊やピーマン・お茶などを栽培している人、建設業の人、ご主人は漁に出



て奥さんは飲食店で働いている人など様々だった。

2回の研修を受け、訪問国の自然や文化、産業などの実情視察や女性たちとの交流、そして団員相互の交流を目的とするタイ・台湾へ4泊5日の初めての海外旅行に出発した。

タイでは茶褐色の水の上に細長いボートを浮かべ、果物や日用品をいっぱい乗せて、にこやかに近づいてきて商いをする水上マーケットの女性たちはとてもエネルギッシュで印象的であった。

業種別視察では、バンコクにある24時間営業の魚市場へ行った。バスを降りると高温と生臭さで顔をそむけそうになったが、そんな中で女性達が活気よく働いていた。この市場は50%を国が出資し、1日500トンの売買があり、50%がバンコクで消費され、35%を輸出、15%を加工するそうである。

日本へもブラックタイガーや給食用の魚のフライが輸出されている。市場は場所を提供するだけで売り手と買い手が値段を交渉して決め、1%~6%の手数料を市場が徴収する。そして、1%は給料などの維持費、2.5%は漁業者への援助、0.25%は海難遺児のために充てられるそうだ。競りは午前3時に海水魚、午後2時から淡水魚、午後5時から加工用のアジ類など1日3回行われている。

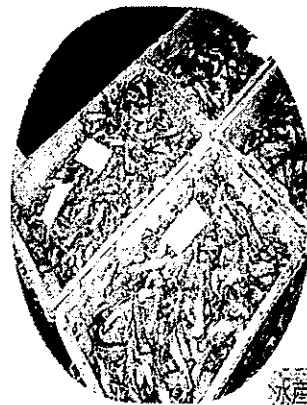
～バンコク魚市場概要～

- ・市場は場所を提供するだけ
- ・売り手・買い手が値段交渉
- ・市場・・・1%~6%の手数料を徴収

維持費	・・・1%
漁業者への援助	・・・2.5%
海難遺児へ	・・・0.25%

★競り★

AM3:00海水魚 PM 2:00淡水魚 PM 5:00加工用アジ類



日本に輸出されるというエビ



漁業者には階級があり、上層階級は30人乗りの船主で、奥さんは主に船の手配をし、中層階級は20人乗りの船を持ち漁に出て、奥さんは魚を売り、下層階級は雇われて漁に出て、奥さんは市場で働き、給料は1日100~120バーツ（日本円にして400円程度）と聞き、あまりの安さに驚いた。

タイでも後継者問題は深刻で、上層・中層階級の家庭は跡を継ぐ人が少ない反面、下層階級は出稼ぎの人たちで、親と同様ずっと漁師をするそうだ。

翌日はバンコク市街地を抜けると埃が舞い上がるデコボコ道が続き、その先のスラムにある福祉機関プラティープ財団を視察した。

プラティープさんは自らがスラム出身で、苦学して大学を卒業し、「教育が貧困生活を変える」との思いで私財を投じて財団を設立されたそうである。そこは、里親制度や60

名収容の全寮制麻薬撲滅施設があり、私たちが訪れた時は難聴の幼稚園児によるタイの踊りと愛くるしい笑顔で歓迎してくれた。ここにはたくさんの日本人がボランティアで働いている事を知り、大変驚いた。

台湾では太極拳や中華料理の調理実習を体験した。食事も日本人の口に合い、とても美味しかった事を覚えている。

ハードスケジュールだったが、観光では滅多に経験できない有意義な時間を過ごすことができ、女性部や県の関係者の方々に心から感謝したいという気持ちでいっぱいだった。この時の班の人達との絆も深まり、15年経った今でもお付き合いをしている。この貴重な体験をこれからも仕事や地域の活動などに活かしていきたいと思っている。

協業体とは・・・？

★個人経営体が複数集まり協業すること★

騒音・汚水発生による苦情、経費負担を減らす為

佐賀県 ↓ の補助

国庫補助沿岸漁業活性化構造改善事業 (沿構事業)

平成12年、仕事に転機が訪れた。平成9年に出来た協業体に欠員が出て、私たちが入る事になったのだ。協業体とは、海苔養殖の個人経営体が複数集まり協業する事をいう。この頃、海苔養殖漁家による騒音と汚水の発生に対して近所から苦情が出ていた事や、機械の更新の為の経費が個人経営体にとって莫大なものであるため、佐賀県が

補助する国庫補助沿岸漁業活性化構造改善事業（略して沿構事業）が推進され、工業団地に東与賀町支所として初めて出来たのがこの協業体であった。（写真4.5）

私は当初、乾燥機を買い換えて6年、まだまだ使えるし子供の受験も控えていたので、協業体への加入を反対したが、近所への影響や労働の軽減、コスト削減を考えると工業団地へ移るのが良いと思い、夫の決断に同意した。

協業体は4組の夫婦で仕事をし、時には意見の相違もあったが知恵を出し合ったり、外部からの情報を取り入れたりして、みんなで協力し取り組んできた。しかし、後継者がなく一組の夫婦が止め3組になったが、一夫婦に跡継ぎができ若い力に少し光が見えてきたようだった。

6. 波及効果

平成20年、私の息子は医療関係の専門学校で4年間学び、卒業と同時に結婚、そして半年後には孫の顔が見られるという三重の喜びに浸っていた。

しかし、そんな矢先夫に癌が見つかり、突然暗闇の中へ突き落とされたような気がした。

私は、主治医の話も遠く夢の中の出来事のように聞いていた。

「すぐ入院して下さい。」という病院からの言葉。「どうしよう・・・」病気のこと、仕事のこと、生活のこと、頭の中がグルグルと廻っていた。

その一方で、夫は自分の事よりも、近々乾燥機を買い換える予定だった協業体のみんなに迷惑をかけられないとの一心でいたのだ。そこで、自分の人生、自分の道を歩こうとしていた息子に相談をした。息子は「お父さんにまだ恩返ししていないから俺が跡を継ぐよ。」と言ってくれた。ずいぶん悩んだと思う。でも、決断してくれた。その上、福岡育ちの嫁もまさか自分が漁業をすることは思ってもいなかっただろうが、息子について来てくれたのである。どんなに嬉しかった事だろう。

三ヶ月後夫は亡くなり、海の事は何も分からないまま跡を継いだ息子の苦労は大変なものだったと思う。

しかし、家族の前では一言も不平不満を言わない。逆に一緒に働く私の方が「何で跡を継がせたのだろうか、海苔養殖業を止めればよかった。こんな時に父親がいてくれたら・・・。」と思い悩み、涙する事が度々あった。

父親を亡くして2年、もやしのような息子も少し慣れてたくましくなってきた。これもひとえに協業体の仲間に支えて頂き、その他漁業関係者の方々よりたくさんのご教示を頂いたおかげだと思っている。(写真6. 7. 8. 9)

まだまだ未熟だが、協業体に2人の若い後継者が出来て大変頼もしく思うのと同時に、協業体だからこそ助け合う事ができたのだと、協業体の良さを実感した。

7. 今後の課題や計画と問題点

しかしながら、周りを見ると高齢化や後継者不足は深刻な問題に発展している。特に後継者の中に独身男性が多く見受けられ、冒頭でも話したように、年々女性部員数も減少しているのが現状である。

確かに漁業の労働は大変だ。しかし、昨今は親子や夫婦の会話が少ない世の中、毎日会話を交わすのはもちろん、家族みんなで力を合わせて仕事をし、喜びも悲しみも共有できる家族・・・って素敵ではないか？

漁業を知らない女性たちに私の思いを伝えられたら・・・、そして今私たちに出来る事は何か？…と考えた時に思い浮かんできたのは「おせっかいお婆さんの嫁探し」だった。昔はこんなおじさん、お婆さんが何人もいたようだが、最近はほとんど見られない。

私は、今年度から女性部部長という大役を任されたので、これを機に色々な業種の人たちに声をかけ、若者たちの出会いのきっかけを作り、自分の経験談も参考にしてもらえた

らいいなあと思っている。まだ構想中だが、『漁業者（はま）の嫁に来んしゃい』というテーマを掲げて、出会いの場を提供し1組でも2組でもゴールインするカップルが出来て、浜が活気づく事を願っている。

そして、時が来たら、私が姑から受け継いだように、女性部への参加を嫁へとバトンタッチして、家族を支える存在になりたいと思っている。

写真1



写真2

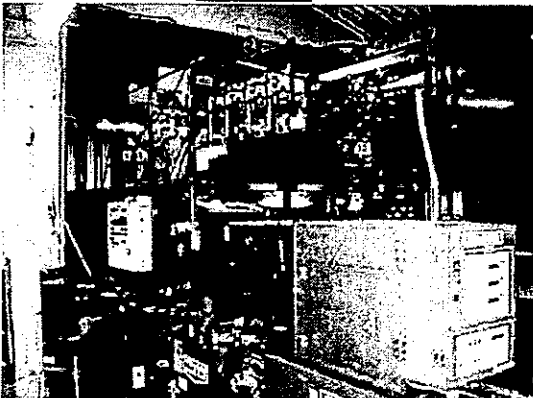


佐賀県女性海外派遣事業
「ふれ愛の翼'95」への参加

写真3



写真4



～協業体施設の外と中の様子～

写真5



写真6



～息子の竹立て作業～

写真7



～海苔の採苗準備(種入りカキ殻を網につける)～

写真8



～冷凍網干し作業～

写真9

～わたしの家族～



～今後の課題～

- 漁業者の高齢化・後継者不足
- 後継者の中に独身男性が多い
- 女性部員の減少

など

・・・私達に出来る事は何か？

漁業者（はま）の嫁に
来んしゃい！

↓ ↓ ↓

漁業者（はま）の嫁においでよ！